

Q 1 : 総合的な学習の時間の全体計画を、新学習指導要領に基づいて見直す際のポイントを教えてほしい。

A : 全体計画とは、総合的な学習の時間の教育活動の基本的な在り方を示すものである。具体的には「目標（各学校において設定）」、「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」について明記するとともに、学習活動、指導方法、指導体制、学習の評価等についても、その基本的な内容や方針等を概括的・構造的に示すことが考えられる。

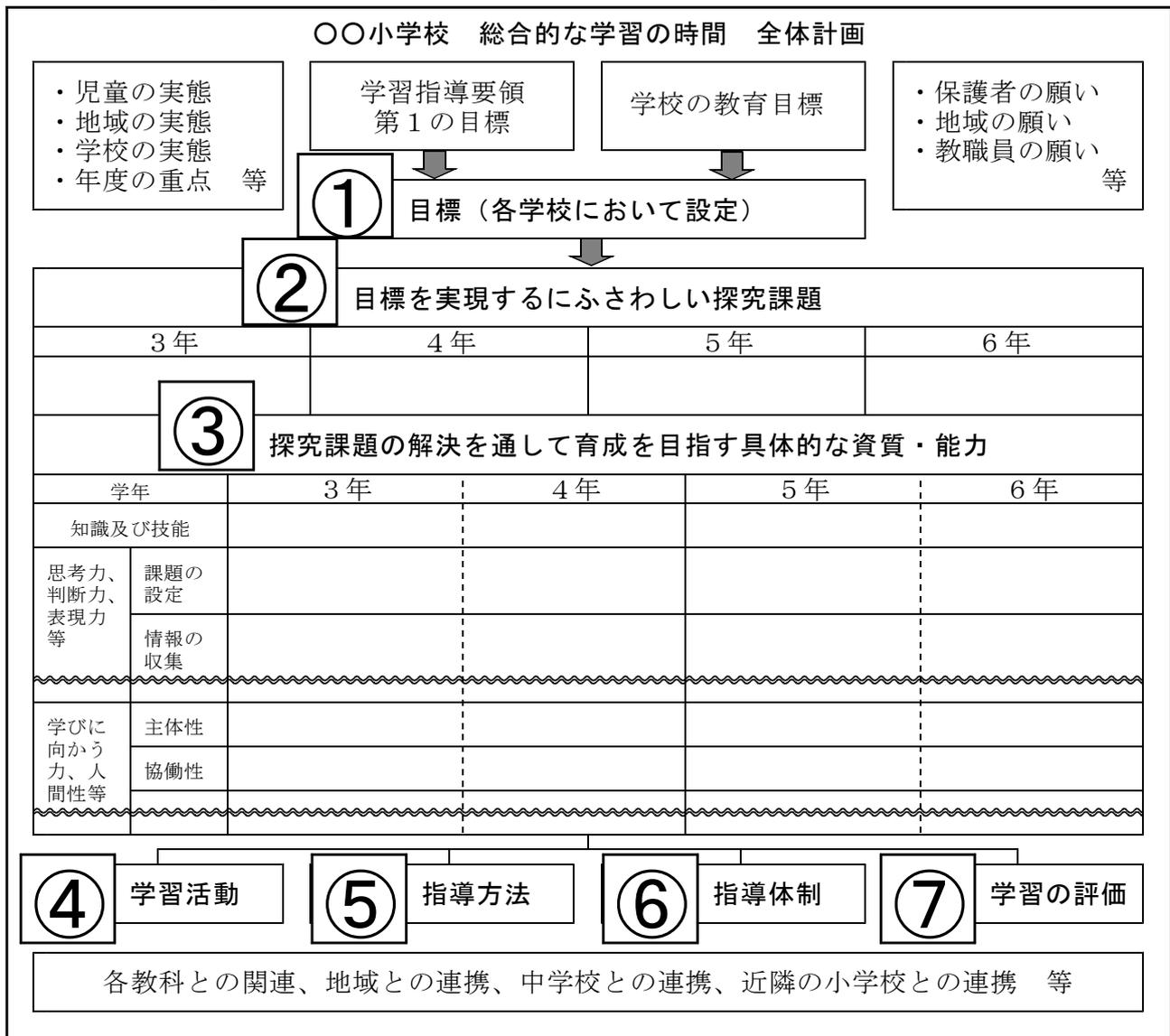
以下に、各学校の全体計画が新学習指導要領の趣旨に基づいた計画となっているかを見直す際のポイントとして、全体計画の様式例及び設定する際の留意点を示す。

1 全体計画の様式例

全体計画に盛り込むべき要素は、次の三つが考えられる。

- ・ 必須の要件として示すもの（下図①～③）
- ・ 基本的な内容や方針等を概括的に示すもの（下図④～⑦）
- ・ その他、各学校が必要と考えるもの（下図①～⑦以外）

また、様式については、必要な要素が含まれていれば各学校で自由に定めることができる。なお、必須の要件として示すもの（下図①～③）及び基本的な内容や方針等を概括的に示すもの（下図④～⑦）を設定する際の留意点については、次ページ以降に示す。



図：全体計画の様式例（小学校）※中学校も同様

2 設定上の留意点

(1) 「① 目標（各学校において設定）」について

目標は、各学校が総合的な学習の時間での取組を通して、どのような児童生徒を育てたいのか、また、どのような資質・能力を育てようとするのかなどを明確にしたものである。

具体的には、学習指導要領の「第1の目標」の構成に従って、以下の2点を踏まえることが必要となるが、記述の仕方については決まった型があるわけではない。

- ・「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通すこと」、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成すること」という、目標に示された二つの基本的な考え方を踏襲すること。
- ・育成を目指す資質・能力については、「育成すべき資質・能力の三つの柱」である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つのそれぞれについて、第1の目標の趣旨を踏まえること。

目標の設定例：小学校学習指導要領解説p.71、中学校学習指導要領解説p.67

(2) 「② 目標を実現するにふさわしい探究課題」について

目標を実現するにふさわしい探究課題とは、目標の実現に向けて学校として設定した、児童生徒が探究的な学習に取り組む課題であり、従来の「学習対象」に相当するが、探究することを通して学ぶということを明確にするために、「探究課題」として示されたものである。例えば、中学校では以下のような探究課題が考えられる。

課題	目標を実現するにふさわしい探究課題の例（中学校）
横断的・総合的な課題（現代的な諸課題）から	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観（国際理解） ・情報化の進展とそれに伴う日常生活や消費行動の変化（情報） ・地域の自然環境とそこに起きている環境問題（環境） ・身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々（福祉） ・毎日の健康な生活とストレスのある社会（健康） ・自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題（資源エネルギー） ・安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々（安全） ・食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者（食） ・科学技術の進歩と社会生活の変化（科学技術） 等
地域や学校の特色に応じた課題から	<ul style="list-style-type: none"> ・町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織（町づくり） ・地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々（伝統文化） ・商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会（地域経済） ・防災のための安全な町づくりとその取組（防災） 等
生徒の興味・関心に基づく課題から	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会で働く人々の姿と自己の将来（キャリア） ・ものづくりの面白さや工夫と生活の発展（ものづくり） 等
職業や自己の将来に関する課題から	<ul style="list-style-type: none"> ・職業の選択と社会への貢献（職業） ・働くことの意味や働く人の夢や願い（勤労） 等

目標を実現するにふさわしい探究課題の例：小学校学習指導要領解説p.77、中学校学習指導要領解説p.73

(3) 「③ 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」について

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力とは、各学校において定める目標に記された資質・能力を各探究課題に即して具体化したものである。

したがって、資質・能力には、各学校の目標が実現された際に現れる望ましい児童生徒の成長の姿が記載されることになり、その設定例を次ページに示す。

なお、従来の「育てようとする資質や能力及び態度」との関連は以下のとおりである。

従来 【育てようとする資質や能力及び態度】	新学習指導要領 【探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習方法に関すること ・ 自分自身に関すること ・ 他者や社会との関わりに関すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識及び技能 ※新設（探究課題によって異なる） ・ 思考力、判断力、表現力等 ・ 学びに向かう力、人間性等

【探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力の設定例】

知識及び技能	知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物は、色、形、大きさなどに違いがあり、生育の環境が異なることを理解する ・ 身近な自然において、生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する ・ 自然環境は、様々な要因で常に変化する可能性があり、一定ではないことを理解する
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている
思考力、判断力、表現力等	課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題状況の中から課題を発見し設定する ・ 解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる
	情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集の手段を選択する ・ 必要な情報を収集し、蓄積する
	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題状況における事実や関係を把握し、理解する ・ 多様な情報から特徴を見付ける ・ 事象を比較したり関連付けたりして課題解決に向けて考える
	まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手や目的に応じてわかりやすくまとめ表現する ・ 学習の進め方や仕方を振り返り、学習や生活に生かそうとする
学びに向かう力、人間性等	主体性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意思で、目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする
	協働性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする
	自己理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究的な活動を通して、自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする
	他者理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする
	将来展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究的な活動を通して、自己の生き方を考え、夢や希望などをもとうとする
	社会参画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとする

資質・能力ごとの視点については学校で設定する。

知識及び技能については、各学校が設定する内容によって異なる。例えば、「地域の自然と、そこに起きている環境問題」を探究課題として設定した場合は、このような資質・能力が考えられる。

参照：小学校学習指導要領解説p.78～82、中学校学習指導要領解説p.74～78

(4) 「④ 学習活動」「⑤ 指導方法」「⑥ 指導体制」「⑦ 学習の評価」について

これらは、各学校として、この時間の教育活動の基本的な在り方を示すために必要な内容や方針に絞って記述する。

以下に、中学校における記述の一例を示すが、各学校においては児童生徒や学校、地域の実態等に応じて工夫することが必要である。

【記述例（中学校）】

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年は地域、環境、第2学年は職業、健康、第3学年は福祉、国際理解から探究課題を設定 ・学級ごとに1年間1テーマでの取組を基本として実施 ・学年合同で行う単元と、学級独自で行う単元を設けて実施 ・第3学年は個別探究による卒業研究を実施 ・農業体験は年間を通して帯び単元として実施 ・10月と2月の発表会を節目とした単元展開の工夫 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の課題意識を連続発展させる支援 ・個に応じた指導の工夫 ・諸感覚を駆使する体験活動の重視 ・協働的な学習活動の充実 ・教科等との関連的な指導の重視 ・対話を中心とした個別支援の徹底 ・言語活動による体験の意味の自覚化 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会における校内の連絡調整と支援体制の確立 ・カリキュラム管理室を拠点とした情報の集積と活用 ・地域学校協働活動推進員等のコーディネーターとの連携体制 ・地域教育力の人材バンクへの登録と効果的運用 ・ティーム・ティーチングの日常化 ・ワークショップ研修の重視 ・担任外の教職員による支援体制の樹立 ・メディアセンターとしての余裕教室の整備・充実 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオを活用した評価の充実 ・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定 ・個人内評価の重視 ・指導と評価の一体化の充実 ・学期末、学年末における指導計画の評価の実施 ・授業分析による学習指導の評価の重視 ・学校運営協議会における教育課程に対する評価の実施 等

記述例：小学校学習指導要領解説p.90、中学校学習指導要領解説p.86

新学習指導要領の趣旨を踏まえた内容を適切に実施していくためには、見直した全体計画に基づき、年間指導計画や単元計画等についても具体的な改善を図ることが必要である。その際には、以下の参考資料等を十分に活用されたい。

【参考資料】

- | | | |
|------------------------------------------------------------|--------|-----|
| ・「 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 」 | H29.7 | 文科省 |
| ・「 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 」 | H29.7 | 文科省 |
| ・「 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 」(小学校編) (中学校編) | H22.11 | 文科省 |